扶桑探勝圖

亥
194

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

扶桑探勝圖

一

亥
194

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

亥
194

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

燕澤碑考
坪の碑考
和泉燈の傳
牛石　古記
野田玉川　楓山忍意橋
興の井　都島
末松山
松ヶ浦島

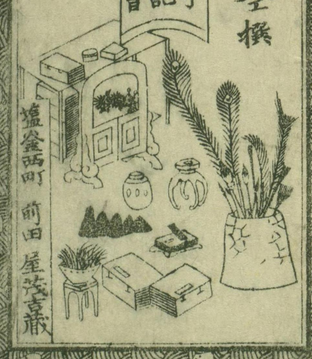
文化十三年

陸奥名碑略

詩哥古記引書

東郷先生
曲溪先生　仝撰

不許翻刻千里必究



塩釜西町　前田屋茂吉蔵

奥州仙臺宮城郡燕澤村之碑全圖

長六尺余、徑三尺石面欄行
其文古體或離合殆不易讀

茂林齋主人
曲溪菅原陳之編

3

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

燕澤碑考
坪の碑考
和泉燈の傳
牛石 古記
野田玉川 枫山 思惑橋
興の井 都島
末松山
松ヶ浦島

文化十三年

陸奥名碑略

東郷先生
曲溪先生
仝撰

詩哥
古記
引書

不許翻刻
千里必究

塩釜西町 前田屋茂吉蔵

奥州仙臺宮城郡燕澤村之碑全圖

長六尺余、径三尺、石面欄行、其文古體、或離合、殆不易讀焉

碑額刻梵文羅字、以代小浮圖。大日經九字秘譯云、羅字金剛火大成日輪觀、復次譯若觀日月輪、凡夫成佛、教迷途狂魄者、要有此一字矣

茂林齋主人
曲溪菅原陳之編

注爾雅云 太歳在壬曰玄黓 在午曰敦牂

譯文

傳聞此碑文唐僧祖元和尚自書、而所使托室門子清俊封輿碑不毛地上也

夫以人值宜從道人正益舉教云、刈丘斷白砥弔亡䰡、元前死次後隕矣

弘安第五天玄默敦牂仲秋彼岸後　里末清俊謹拜

巨隷文、以字ノ瞥也。人字左邊離合成人。八陽經曰、ノ乀成人。字典每無所見、效于此。尉古文道字。亘古文正字。乀弗也、人字右偏、效于上。乚乩糾通、又舉也。歩下文有于名敎字欽一脚、以此例讀、則於知為敎之古文首畫也。蓋人敎敎三字不全成、按後宇多天皇大父帝在世御諱久仁、皇大后薮子、此諱文中見人久薮三字、同其碟畫。仁者人而久亦具其體、敎敎之乏畫入薮字、則為國諱乎。唐六典所謂有國諱者、皆為字不成、誠識法者懼離斷首文、不得止而所作之毀碑而一體放此。集字擄古者、可奇賞。る篆文云字。大與刈同。丠古文丘字。刋切也、斷也。白古文白字、腦蓋頂中也。由者古文塊字、而从土、猶彷彿于由、不可混。肖古文前字。氚古文死字。羊相次也。殯殁也、落也。史記云不戰而坛、注隕坛相通。元古文天字。文古文五字。擀古文拜字

不許翻刻
千里必究

仙臺より塩釜へ下る道中に沈丘坂と云所あり、其下道を燕沢と云、其村に奇碑あり、今圖する如くの碑なり。先年ハ何の碑といふ事知る人なし。吾師鹽亭先生考へ給ひて燕沢碑考と云る書を開板出来して、つまびらかにあらはせり。元唐人にして来れる僧なりしとの、里末清俊と云ハ祖元禅師の従弟にして、碑文ハ弘安の年太元より日本を襲ひ来りて博多の浦にて沈没せし賊の性霊を弔ふ碑なりし。故に離合の文字にて刻めり。真に吾國を攻るの罪を恐れてなるべし。梓行の大平記に由来委しく見へたり。大平記巻之廿に曰、自大元攻日本事。此碑の沈没せし異狄のなき魂を建し碑なれハ、世に弥めづらしきものなりしかし、八鹽亭先生の碑考を求て一読なし給ふべし

弘安五年吾朝後宇多天皇統御、當元世祖至元十九年
○自弘安五年至文化十四年五百三十六年也

仙臺塩釜 菅原氏蔵

奥州仙臺宮城郡市川村坪之碑全圖

多賀
日本記百六日
陸奥國宮

此間一尺

或曰此碑の類四方に有と残東南北に有といふもの
甚誤同じの方角を以て知るべし

不許翻刻
千里必究

此間一尺

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

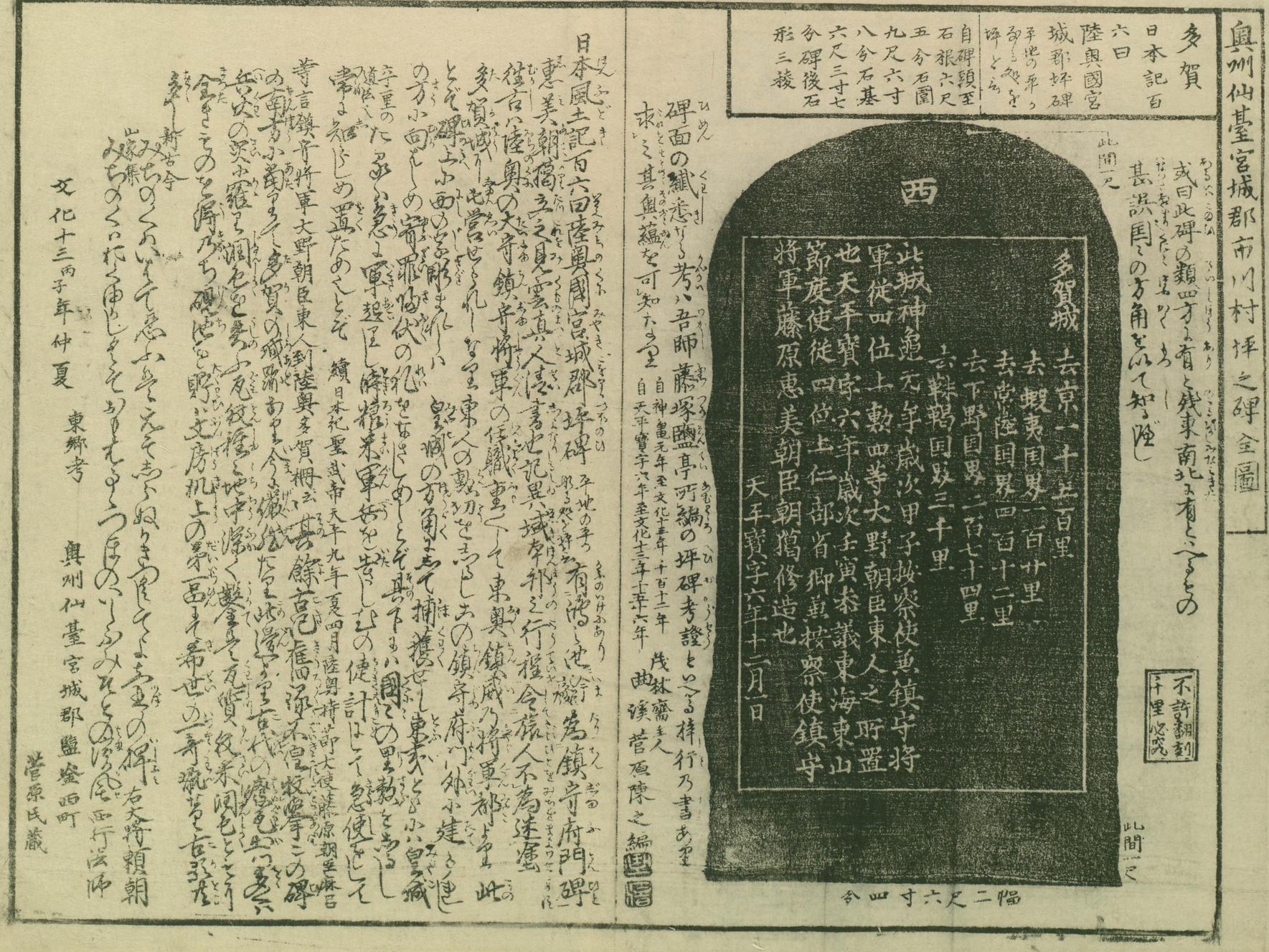
奥州一宮鹽釜社内和泉三郎寄進鐵燈之全圖

世傳曰
南蠻鐵也

自文治三年至文化
十三年六百三十年

奉寄進

奥州仙臺宮城郡南川村坪之碑全圖



多賀

日本記百六曰陸奥國宮城郡坪碑平地の平の字ともよめり坪とも

自碑頭至石根六尺五分石圖九尺六寸八分石基六尺三寸七分碑後石形三稜

此間一尺

西

多賀城　去京一千五百里
去蝦夷国界一百廿里
去常陸国界四百十二里
去下野国界二百七十四里
去靺鞨国界三十里

此城神龜元年歳次甲子按察使兼鎮守將軍從四位上勲四等大野朝臣東人之所置也天平寶字六年歳次壬寅参議東海東山節度使從四位上仁部省卿兼按察使鎮守將軍藤原恵美朝臣朝獦修造也

天平寶字六年十二月一日

不許翻刻千里必究

此間一尺

高二尺六寸四分

碑面の縦横を考ふるに方一尺の割なり

碑考證

自神龜元年至文化十三年一千百二十年　茂林齋主人

自天平寶字六年至文化十三年一千一百六十年　曲溪菅原陳之編

日本風土記百六曰陸奥國宮城郡坪碑平地の平の字有證也為鎮守府門碑一惠美朝獦立之見于續日本紀異城考邦之行程今猶人不為迷焉從古八陸奥の大守鎮守將軍の任職重くして東奥鎮戍の將軍都督多賀城に營せられしなり東人の勲功をもとして碑上の面の字郎ち此の方小面の字郎ち北の方小面の字郎ち東の方小面の字郎ち南の方小面の字郎ち西の方小面の字郎ち碑面の縦横を考ふるに方一尺の割なり罪過代の紀事を捕獲せし東夷の降虜の多きを以て軍旅の煩勞を告ぐる事を知るべし

續日本紀聖武帝天平九年夏四月陸奥持節大使兼鎮守將軍大野朝臣東人到陸奥多賀柵云々

寺言鎮守將軍大野朝臣東人到陸奥多賀柵云々

餘言

福源寺不詳牧牛の事未詳右大將賴朝公の奥州征伐の時此寺の僧侶の出迎ひ奉りしや否や今猶傳へ聞くなし

新古今

みちのくにいでたつ衣のたつそともおもひおくらむ人しつまずは

みちのくにあだちのまゆみ引きもみてうつろふ色のうつしごころを

文化十三丙子年仲夏　東郷考

奥州仙臺宮城郡鹽釜四町
菅原氏藏

奥州仙臺宮城郡南川村坪之碑全圖

多賀
日本記百六曰陸奥國宮城郡坪碑平地の平の字ともよめり坪とも

自碑頭至石根六尺五分石圖九尺六寸八分石基六尺三寸七分碑後石形三稜

不許翻刻千里必究

書を開板出来してくらうつまでそあるべし
里未詳俊と云ふ八通石深沼の從事にして元唐人書れり傍らなるもの碑文八弘安の年を甚遠年にして博多の浦まで沈没せし賊の性靈を弔ふ碑なりし故み離合ふ文字まで刻めり真と吾國を攻るの器と知れてなるべし
大平記巻之廿曰自大元攻日本一支。
拝行の大平記ゟ由事委しく見べくら
沈没せし異船のけ色を建し碑ありしとぞ八鹽竈先生の碑考を求て一読尓給ふべし

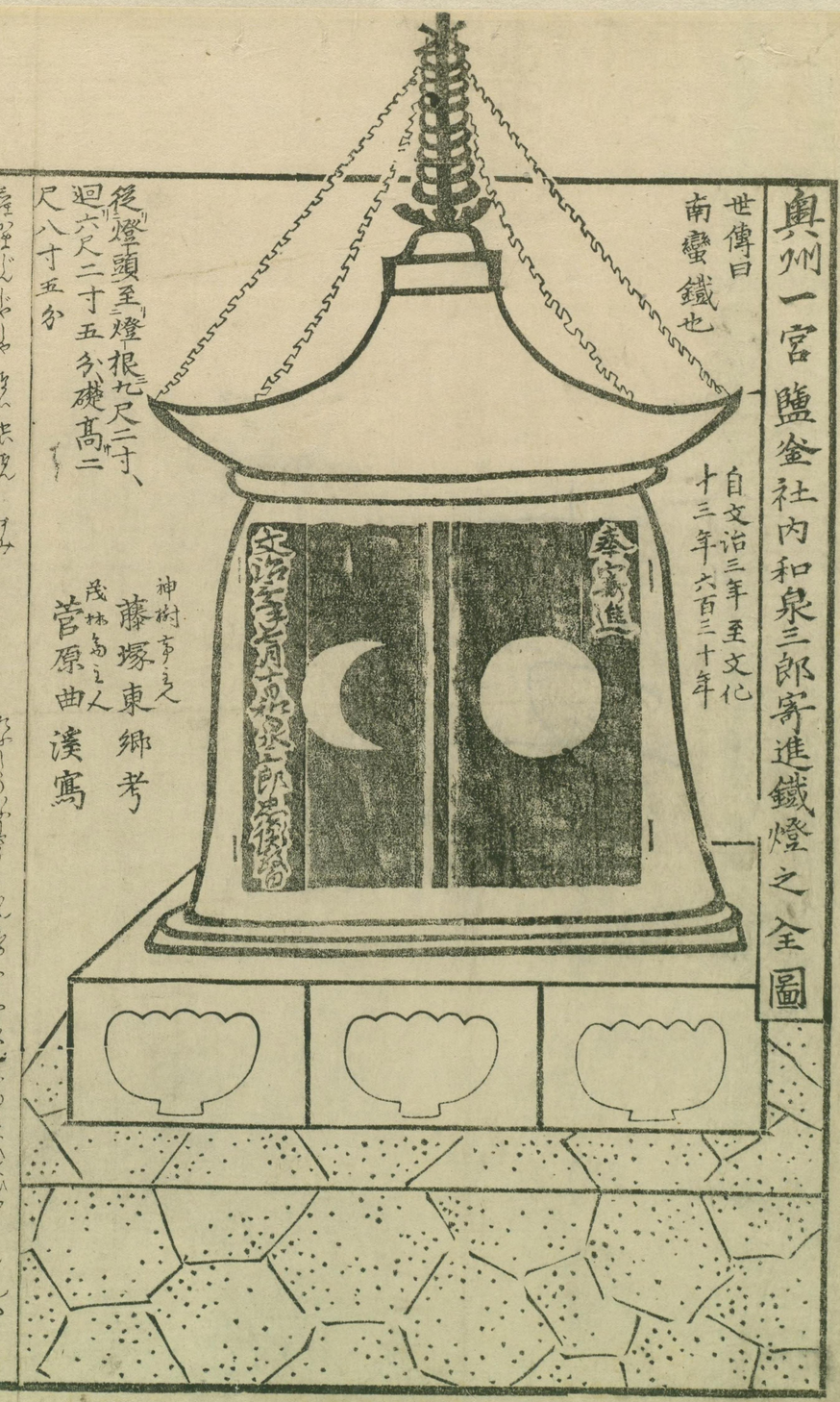
不許翻刻千里必究

弘安五年吾朝後宇多天皇統御當元世祖至元十九年。

○自弘安五年至文化十四年五百三十六年也

仙臺鹽釜菅原氏藏

奥州一宮鹽釜神社内和泉三郎寄進鐵燈之全圖



世傳曰
南蠻鐵也

自文治三年至文化
十三年六百三十年

後燈十頭至燈根七尺二寸、
廻六尺二寸五分、高二
尺八寸五分

神樹 藤塚東郷考
茂林 菅原曲渓寫

奥州仙臺宮城郡鹽釜西町
菅原氏藏

奥州一宮 鹽釜 守 神石明神 真圖

奥州一宮鹽釜神社内和泉三郎寄進鐵燈之全圖

文化十三丙子年仲夏 東郷考

奥州仙臺宮城郡鹽釜西町 菅原氏藏

不許翻刻 千里必究

農作無事 老少健固

此外有古記真圖

塩釜神社の社内西南は隅小あるを大鳥と称す奥羽押領使鎮守府将軍藤原秀衡の三男和泉三郎忠衡守進の献燈なり裏背銘倉富幕府義経のなき事泉高館のとき秀衡が義経の傳ある邸の東鐘及鐘倉寛伝寺の書かと見れ いまだ暑気又元徳の比芭蕉翁東遊の奥の細道とかや紀行あり其に載る所なる今此燈籠の行損を恐るゝため小神庫や収むと

いへり故今茲見る所なり

芭蕉翁道祀る曰五月雨の空晴れて夕月夜幽よ色ふほと近一盞の小舟漕つれて看るの色悲しきとよみ給ふをもて其夜月詠卯の丑刻を聞きせんとて奥ゆくるといふやうの色あるべし潮なきあぢひなしたる潮早朝塩釜の神社詣給ふ再拝せられ宮柱ふとしき彫刻きらびやかなる石の階九級登り朝日あけの玉垣をかやきつゝ遠の黒塵士の竟まで神霊あらたまましまして昔国の風俗なれとも貴神前おもあり神の殿乃重小文治二年和泉三郎寄進有百年来の今 目の前まのかひてそうよ改勤義を守るべし

誹和尚密衡古燈待井秋

奥足猶鑑有足猶鍵

人皆存名男義聞器容無足鍵鑵分月明扉上千秋歎相聴長懸不打文

金鎗太刀名遠棠傳感燈乃真鐵能扉千代毛見良國

今ある此の燈の蓋そ寛文年中仙臺甲冑堀尾宗心といへる再造せり

藤塚知明

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

奥州一宮塩釜守

牛石明神

農作無事
老少健固

此外有古記真圖

往昔塩釜の神合に塩成
始る製しなれば人民を施
しまふ時に出るもしかなる
牛今に供して居ると成
御釜神社に近き町家の
ふ小池の内にまた常に八
水無くて口をうるに背の
ゝ見ゆ無年七月六日
其六をさらふるなり
此日世人塗家の新絶
成以見るのに仍て他日
至るとる遊客の為に是
を圖して世に布事
ありなり

天福元年再刻

塩釜町

文化十年春再刻改

不許翻刻
千里必究

ありかゝの扉乃面に文治三年和泉三郎寄進と有五百年来の侍今目の前にうかひてそうらに陥し涙を
勇義忠孝の士也佳命今に至りて志ふ事といふ事なし 滅に人能道成勤め義を守るべし名をまた是に志
こゝにとゞまり

誠和泉忠衡古燈詩并歌 無足謂燈有足謂錠

人口存名勇義聞器容無足錠鐙分月明扉上千秋歎相照長懸不朽文

劍太刀名遠裳傳底燈乃真鐵能扉千代毛見良國

今ある処の燈の蓋にて寛文年中仙臺平家塚尾宗心といへるに再造なり

藤塚知明

仙臺塩釜西町 菅原氏蔵

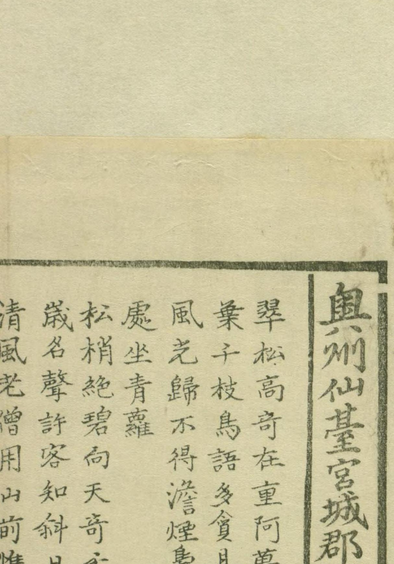
奥州仙臺宮城郡留谷村野田王川楓山全圖

仙臺名家絶句

奥田誠美放舟云新涼閑放小艄舲山色湖光両様青
欸乃聲消天寂々黄昏欲上水心亭 松井元輔送友人帰
山云帰田賦就拂衣去妻抱両兒僮負書為喜先生看
事早絶勝通老老移居 藤玄珉中秋新晴云豊穣同
恰在秋村芋栗人共老瓦盆自是殘年閑富貴故

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

奥州仙臺宮城郡八幡村末松山眞寫

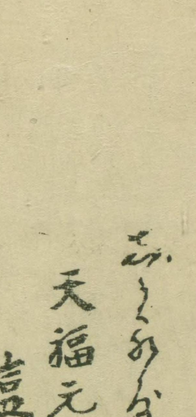


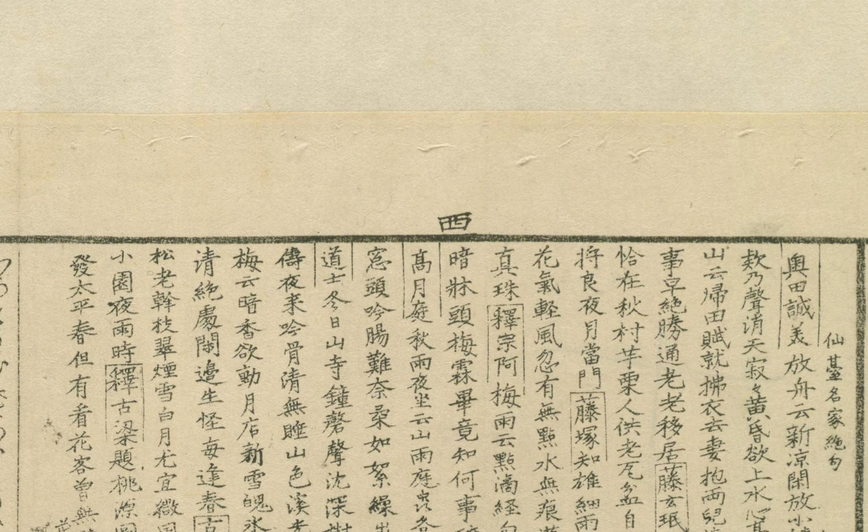
翠松高奇在重阿萬
葉千枝鳥語多貪見
風光歸不得澹煙裏
處坐青蘿
松梢絶碧向天奇千
歳名聲許容知斜日
清風老僧用山前惟

不許翻刻
千里必究

奥州仙臺宮城郡留谷村野田玉川楓山全圖

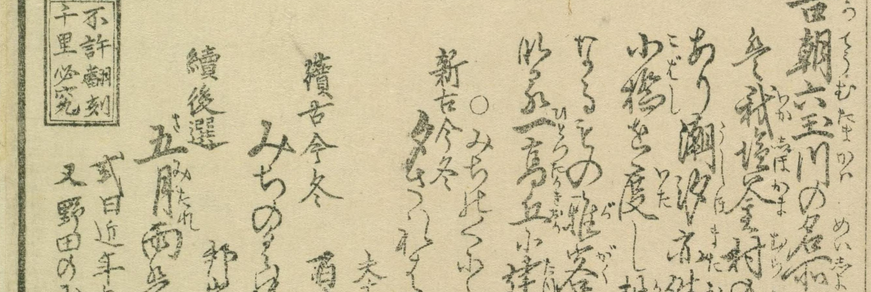
天福元年再刻
鹽釜町
文化十年春再刻改





仙臺名家絶句

奥田誠美放舟云新涼開放小艇艫山色湖光両様青
欸乃聲清天寂々黄昏欲上水心亭 松井元輔送友人帰
山云帰田賦就拂衣去妻抱両兒僮留書窗喜先看
事卓絶勝通老老移居藤玄蕃中秋新晴云豊穣同
恰在秋村草栗人供老瓦盆自是殘年閑富貴故
将良夜月當門 藤塚知雄細雨云懶雲一日淡模糊
花氣軽風忽有無黙水無痕滿砌緑宵来弱鈴串
真珠釋宗阿梅雨云黙滴経旬聲不休庭蕉濕緑
暗牀頭梅霖事竟知何事醸得詩人微夜愁
高月庭秋雨夜坐云山雨庭皐各帯秋雨聲攪夢到
窓頭吟腸難奈桑如絮繰出愁絲更不枚 清商
道士冬日山寺鐘磬聲沈深樹頭茶甌雪對禪
傳夜来吟骨清無睡山色淡光滿小樓 菅廼陳之畫
梅云暗香欲動月庇 新雪覗水魂有避塵寺画出孤山
清絶處閑邊生怪毎逢春 古走道士松云醉々著
松老幹枝翠煙雪白月尤宜微風聽作弦聲細瞳熟
小園夜雨時 釋古梁題桃源圖云桃花武陵顕映
殷太平春但有看花客曾無避世人
武蔵橋人
曲淵菅原陳之書并画



新古今冬
名にしおはゞいなといはじ駿河なる
みちのくまでもゆく心あり

○みちのくまでもゆく時よみ侍りける

續古今冬
みちのくの野田の玉川みちのくまでも
行きて汲まゞ飽かじ

續後選
五月雨の空もとゞろに野田の玉川滿ちぬらし
鴨羽色の波

武日近年南部小岡名あるところ岡國ハ二住し真名あらんや余考別
又野田の玉川乃旧名野辺あるを言長けれいとふあけん
奥州仙臺塩釜西町
菅原氏蔵

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』　請求記号 亥-194

文化十三年歳次丙子晩夏畫改

奥州仙臺宮城郡八幡村末松山真寫

翠松高奇在重阿萬
葉千枝鳥語多貪見
風光歸不得澹煙裏
處坐青巒
松梢絶碧向天奇千
歳名聲許客知斜日
清風老僧用山前惟
是有佳詩
山釀醒来夢不成松
林遊遍一身軽幽情
恰好涼秋暮野蓼紅
花帶月清
枯樹殘陽却似春松
梢緑厚亦鮮新醉情
好是清閑地只欠溪
邊覓句人

茂林爾主人

曲溪寫并題

不許翻刻
千里必究

未の松山を興乃名所上ふある山也寺あり未松山
是その旧地なり古海道ことに数里遠れども浮世山望ふ小遠海の風こ
越うんとありそし松ふ風ふ泥ふをこのとある 歌枕の文長けれバ
頭昭神中柳
未の松山と号陸奥國ふあり能因坤元儀ふ未の松山中の末松山とそ
三里ありと云り又或本ふ未の松中ふまつをゆくされバ松山ふ波
ようそ

遥なる浪をへだてゝ来の松千ざまでやとのみ歌みけるのな
又或ハ松山なる
松山ふ浪ふこさなるふ浪ふこさんことさへふ思ひきをよ
宗久紀行
ゑ関の松ふまつふ波たゝるとも浪ふこさるゝ事ふあらなん
頭昭神中柳
未の松山浪こゑとそよハむ四女ふあて未の松をはそふの山ふ浪の越ん
あらへきと無ひたるよふ男女をこゝろうひすることを未の松山浪こゑとよむ
ふむらひなる山の浪ハさん哀をもちひけるふとゝろうなきさふの山浪こゑとよむ
あまつふ浪のそろ山より上ふ見こゑれて山をこゑとみゆるおろそ儀の浪ハこゑさよ
宗久紀行
ゑ関の松山ハ無落ふまつを悟ふ後の浦ふうせ具を都のほとゝふ持行しと歌あるも
奥州一宮神官
東郷識

塩釜西町

菅原氏藏

不許翻刻
千里必究

續古今冬

みちのくの野田の玉川みだれても波風ふ試くる哉

順徳院御製

續後選

五月雨ふ水なほらみちのくの野田の玉川滿さりけり

鴨祐之

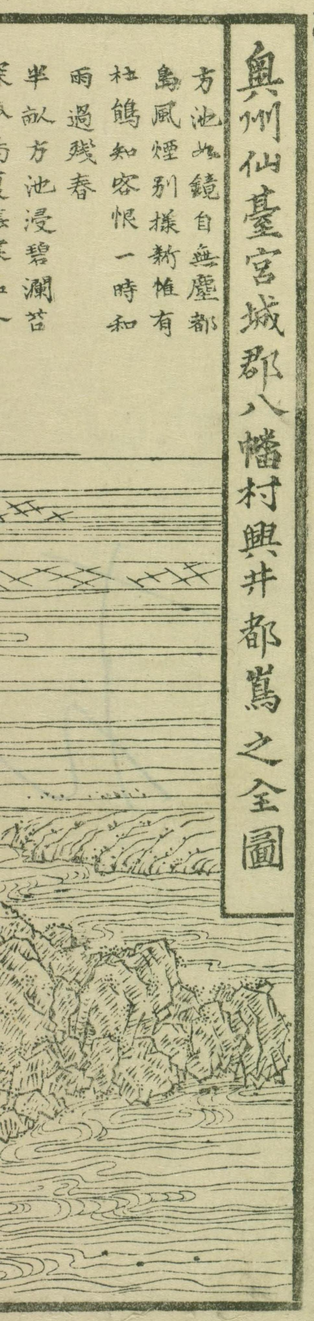
武日近年南部小岡名あるとも同國ふて二ほこ高名あらんや余考別ありと
又野田の玉川乃旧名引考あるとも言長けれいこゝふあらけり

奥州仙臺塩釜西町

菅原氏藏

沖の石

奥州仙臺宮城郡八幡村興井都嶌之全圖



方池此鏡自無塵都
鳥風煙別様新雅有
杜鵑知客恨一時和
雨過殘春

半畝方池浸碧瀾苔

不許翻刻
千里必究

奥州仙臺宮城郡松ヶ浦島眺望之全圖

文化十三年歳次丙子孟夏畫改

奥州仙臺宮城郡八幡村興井都嶌之全圖

方池如鏡自無塵　都島風煙別様新　惟有杜鵑知客恨一時和雨過幾春

半畝方池浸碧瀾　苔深孤島夏陰寒　如今借我舟青手　幾使遊人掌上看

天工碌々如雲束　地利磷々似屏開　半夜卻憐秋草雨　山螢幾點寂飛来

景趣天然位置宜　寒光帯雪又清奇　此生元是幽佳句　隣里催銭向酒旗

茂林齋主人
曲溪菅原陳之寫并題

興井都嶌ハ仙臺を去る東數里ニ八幡村といふる小村ニ居興井ありこれを興井都嶌と稱す　古来人稱して曰興の石碁奇絶妙絶無比又池中西北隅小嶋の井と稱ス

興井ハ都嶌ニ仙臺を去る東數里ニ八幡村といふる小村ニ居興井ありこれを興井都嶌と稱す　古来人稱して曰興の石碁奇絶妙絶無比又池中西北隅小嶋の井と稱ス

不許翻刻
千里必究

奥州一宮神官
藤塚東郷識

不許翻刻
千里必究

奥州一宮神官
東郷識

沖の石

文化十三年歳次丙子孟夏畫改

奥州仙臺宮城郡八幡村興井都嶌之全圖

方池如鏡自無塵　都島風煙別様新　惟有杜鵑知客恨一時和雨過幾春

半畝方池浸碧瀾　苔深孤島夏陰寒　如今借我舟青手　幾使遊人掌上看

天工碌々如雲束　地利磷々似屏開　半夜卻憐秋草雨　山螢幾點寂飛来

景趣天然位置宜　寒光帯雪又清奇　此生元是幽佳句　隣里催銭向酒旗

茂林齋主人
曲溪菅原陳之寫并題

興井都嶌ハ仙臺を去る東數里ニ八幡村といふる小村ニ居興井ありこれを興井都嶌と稱す　古来人稱して曰興の石碁奇絶妙絶無比又池中西北隅小嶋の井と稱ス

興井ハ都嶌ニ仙臺を去る東數里ニ八幡村といふる小村ニ居興井ありこれを興井都嶌と稱す　古来人稱して曰興の石碁奇絶妙絶無比又池中西北隅小嶋の井と稱ス

不許翻刻
千里必究

奥州一宮神官
藤塚東郷識

不許翻刻
千里必究

奥州一宮神官
東郷識

沖の石

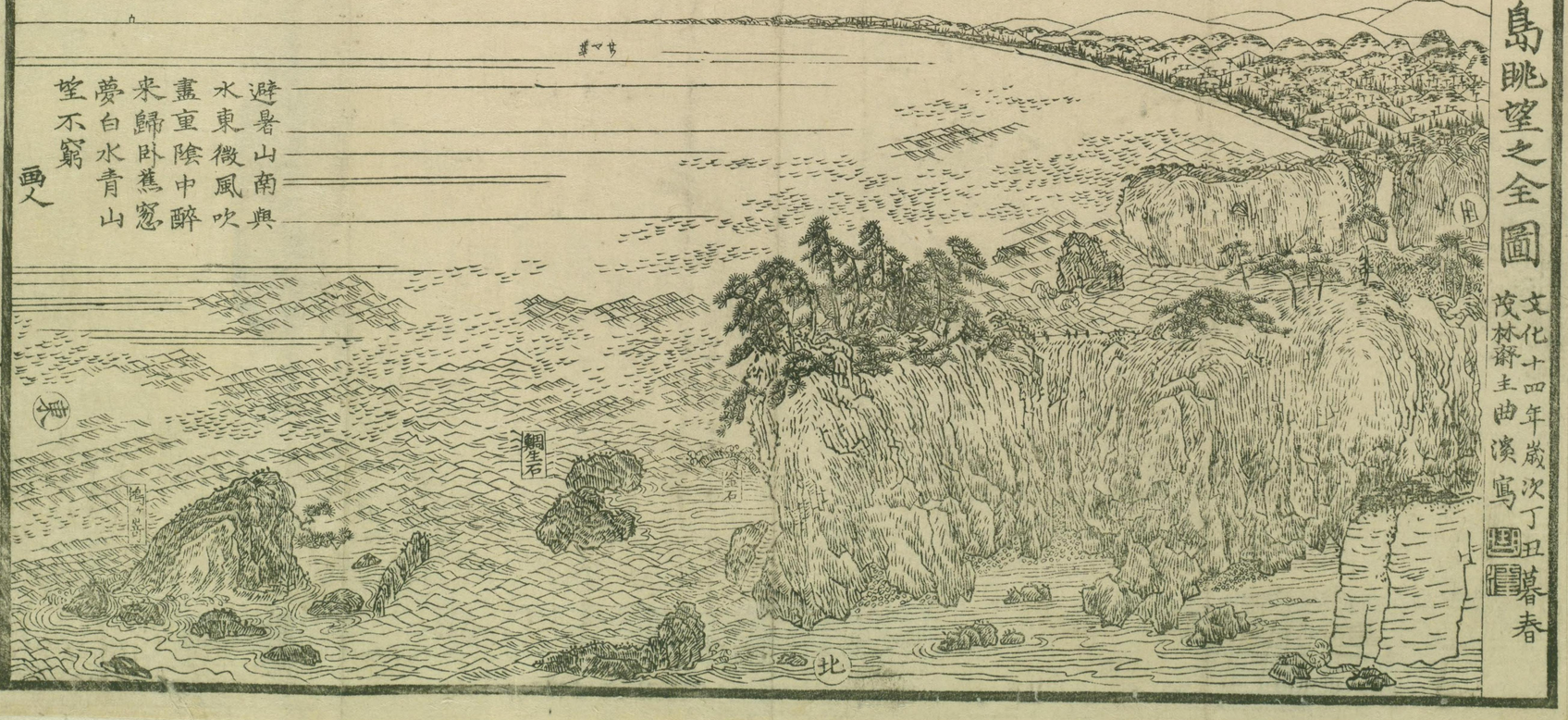
国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』　請求記号 亥-194

奥州仙臺宮城郡松ヶ浦島眺望之全圖

文化十四年歳次丁丑暮春
茂林斎主曲溪寫

松ヶ浦島八十賀の浦を去る事二里餘
まつうらじまやそかのうらをさることにりよ
北うつの湾あり其佳境絶景松島よ
きたうつのわんありそのかけいぜつけいまつしまよ
りすぐれ黄金島の上より望覧記あり
りすぐれこがねじまのうえよりぼうらんきあり
住谷を漕ぐらむ今まで魚も無き所
すみやをこぐらむいまでうおもなきところ
漁家多くして捕魚甚だ繁き
ぎょかおおくしてほぎょはなはだしげき
此濱の南を断岸千尺長湾數
このはまのみなみをだんがんせんじゃくちょうわんすう
仞荒浪奔騰雄々そゝて石磯の松
じんこうろうほんとうゆうゆうそそりてせききのまつ
ケ根よそゝり山頭を御厩崎之稱
がねよそそりさんとうをうまやざきのしょう
國君観眺の場ともなんぐうし望ハ
こっくんかんちょうのばともなんぐうしぼうは
北陽南方西関東溟盡々入吟眸
ほくようなんぽうせいかんとうめいことごとくぎんぼうにいる
其地八七ッ森和泉岳仙臺城盤山
そのちはちななつもりいずみだけせんだいじょうばんざん
或ハさやの関不忘山および名取直理
あるいはさやのせきふぼうざんおよびなとりただのり
伊具宇多相馬の諸山等ヤり
いぐうだそうまのしょざんなどやり
歌人松ヶ浦嶋の古歌を以て松島
かじんまつがうらじまのこかをもってまつしま
の古歌とハ是甚実地を穿鑿
のこかとはこれはなはだじっちをせんさく
の論ともなるとハ松島の景ハ西子
のろんともなるとはまつしまのけいはせいし
う眠この如く松ヶ浦島の景ハ
うみんのごとくまつがうらじまのけいは
西子う賢る時の如し嘗て一様の
せいしうけんるときのごとしかつていちようの
旅観とたゝも爰ろ
りょかんとただもここ

藻塩草三云 松ヶ浦島 奥州
もしおぐさいわく まつがうらじま おうしう
おとよきく松うらしま有
霜 月 雪ハ降ル 雪ハ降ル火
あー立 吉野のひろま 藤 みやまの桜
新古今春下
仰ある漁人やうやう春ことる
うち咲つゝれ松うらしま
後撰後撰
藤原光俊
あまをとめるる雪袖のへまで波風よ
はふハれつゝる松う浦しま
素性法師
後撰集
青々や松うらしまの小島の色も
むかしにかわる波の上哉



塩釜西町 菅原氏蔵

不許翻刻 千里必究

奥州一宮司官 藤塚東郷識

不許翻刻 千里必究

御目印

仙臺國分ノ町宿

福田屋與八郎

仙臺領名所舊跡 松島 塩竈 金華山 名産

東

南

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

御目印 仙臺國分町宿 福田屋與八郎

塩竈ゟ松嶋 金華山迄道法

國分町ゟ 原ノ町	廿五丁
今市	二り
塩竈	二り
松島 但海陸同し	二り
たかき	十八丁
小野	三り
矢本	二り半
石ノ巻	二り半
ことのそ	一り半
岩ケ田	一り半
蛯浜	一り
桃ノ浦	一り
沖ノ浜	一り
くつこ	一り
小渕	一り
大原	十一丁
久ケ分	一丁余
十八成	十三丁
鮎川	十丁
山鳥渡	廿八丁
金華山	廿四丁
大金寺	八丁

湯殿山道法

國分町ゟ あやし、	三り
[illegible]	三り半
西ノ尾	二り
二口峠	三り
山ノ寺	三り
是より谷地まで きか井、	四り
天童	二り
六田	二り半
たて岡	二り半
大石田、是より舟にて 清川まで	
舟方	二り廿七丁
清水	四り
古口	二り
清川	二り
かり川	五り
羽黒	二り十六丁
月山	三り
湯殿山	

仙臺ゟ日光道 國分町ゟ

長町、	一り
中田	廿二丁
増田	三十一丁
いわぬま	一り廿七丁
槻木	一り十五丁
舟迫	一り十一丁
大河原	一り十五丁
金ケ瀬	三十一丁
宮	一り十三丁
白石	一り十三丁
こすご	一り十二丁
藤田	一り
かいた	十八丁
桑折	一り七丁
瀬ノ上	一り七丁
福島	一り十三丁
八丁目	二り八丁
二本松	一り廿二丁
杉田	一り八丁
本宮	一り十二丁
日和田	一り十六丁
郡山	一り十二丁
日出山	二十三丁
須賀川	一り十二丁
矢吹	二り
是より	二り半
大田川	一り廿九丁
白川	二り半
白坂	一り三十三丁
芦野	三り十丁
越堀	二り三十丁
太田原	六丁
佐久山	二り三十丁
喜連川	二り八丁
氏家	一り半
白沢	二り
宇都宮	二り
大沢	二り八丁
今市	一り半
日光	二り
徳次郎	一り十丁
大沢	二り
宇都宮	三り
雀宮	二り一丁
・大田原、	十一り半
・鍋掛	十一り
・かし	二十一り

國分町ゟ南部道 國分町ゟ松島道

長町、	一り
中田	三十二丁
増田	三十一丁
いわぬま	一り廿七丁
是より右へ入りて…	一り
こをり	二り
山下	一り半
坂元	三り
新地	一り
駒ケ嶺	二り
黒木	一り
中村	二り
かしま	二り半
原町	一り半
小高	二り
小野田	二り
中村	一り
熊川	一り
富岡	一り
木戸	一り
ひろの	二り半
久ノ浜	一り半
四ツ倉	一り半
たいら	二り
湯本	一り
植田	二り
舟尾	一り
勿来	一り
磯原	一り半
植田	一り半
名子	二り半
神岡	一り
足洗	二り半
あこ	二り半
沖津	一り半
助川	一り
まご	一り
もり山	一り
以下江戸	
大ぬき	一り
石ンこ	一り
子生	一り
水戸	二り
汲上	四り
鹿島	三り

仙臺領名所舊跡、松島塩竈島々名寄

東

ゆしゆ家	天神社
宮城野	芭蕉ノ辻
下紫	岩切
念佛	田子
小林	小萩ケ池
冨谷川	とらわきの橋
十府の菅	多賀城
壺のいしぶみ	浮嶋
今	松ケ浦
千引石	沖の石
末の松山	野田玉川
籬か嶋	紫神社
松ケ嶋	

南

名取川	熊野堂
光明寺	笠嶋
道祖神社	小萩
實方塚	一ツ目
四十八つ	東光寺
うぐひすの谷	駒が嶺
二本木	安達
竹駒明神	武隈松
ふ川	阿武隈川
あぶくま川	名取川
白鳥社	館腰

西

愛宕	廣瀬川
龍ノ口	青葉ケ崎
愛宕山	長町
茂ヶ崎	三居沢

北

照徳の橋	あなまへ松
岩も森	栗駒山
五十瀬	婉ケ杵
梅ノ宮社	鹽竈
中尊寺	衣川
正法寺	達谷窟
安倍館	毛越寺
圓光山	尾崎大明神

塩竈ゟ松島江

右

ちかふ、かつら島、ちかの島、こしかの島、か嶋、かいたの島、すゝめ島、ひらつか島、たつの島、かつら島、さはの島、うれし島、ほしゐ島、そうれ島、ふくうら島、めしなしまち島、かつら島、あかひら島、ねつき島、ふた子島、すみの島、かしくら島、ゆきの島、いかづち島、わたし島、こうし島、たちもの島、とこ島、やまぶし島、五大堂、すゑの島、ようし島、くつき島、大木島、みくら島、つし島、をとこ島、かぶと島、かつら島

左

ちよろ島、うそ島、ふちひらの島、のの島、まがき島、あをしま、ふかぶち島、いわ川、あやしま、かつら島、まのき島、はなれ島、たちわかれ島、ほうの島、かしわ島、ちまたの島、あしたか島、こいし島、小松島、八ツせ島、かつら島、まつ島、はしか島、ふくうら島、えびす島、だいこく島、大黒、たから島、かずの島、ふたつ島、めし島、扇島、まがき島、こうじ島、ちさと島、かつら島、ふくら島、五大堂

文化九壬申六月 再刻成

不許翻刻 千里必究

ゆかり行る海士八住処…
古の外 古歌多し歌集 …

奥州一宮司官 藤塚東椰識

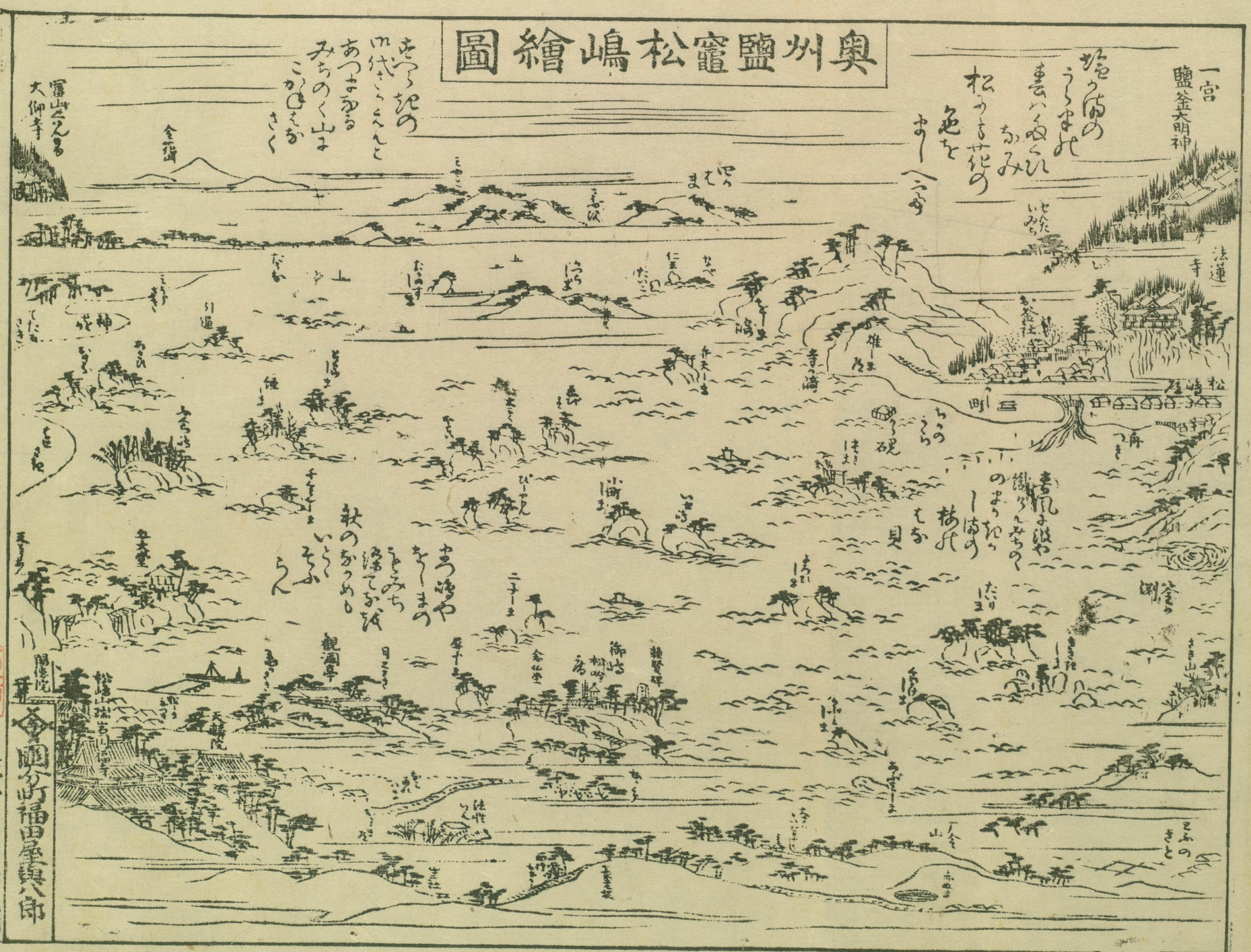
畫重陰中醉
来歸臥蕉窓
夢白水青山
望不窮

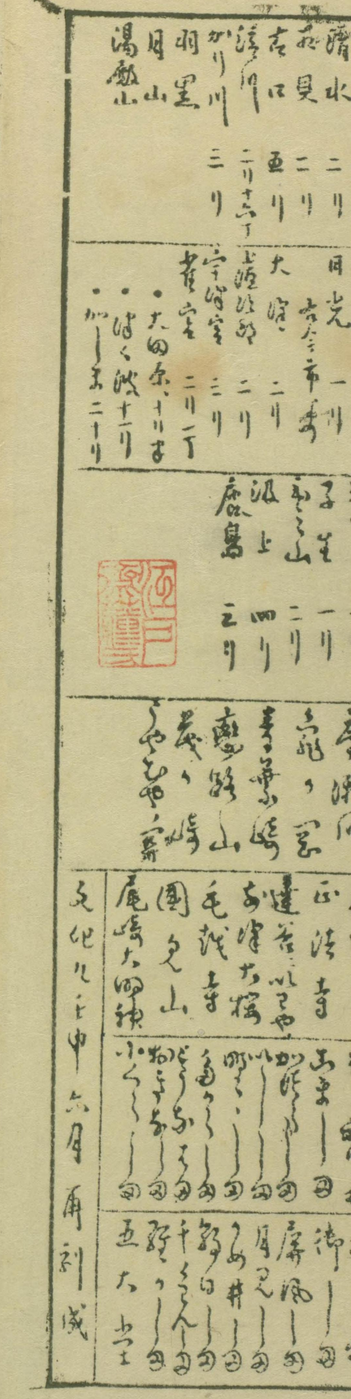
画人

鹽釜西町 菅原氏蔵

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

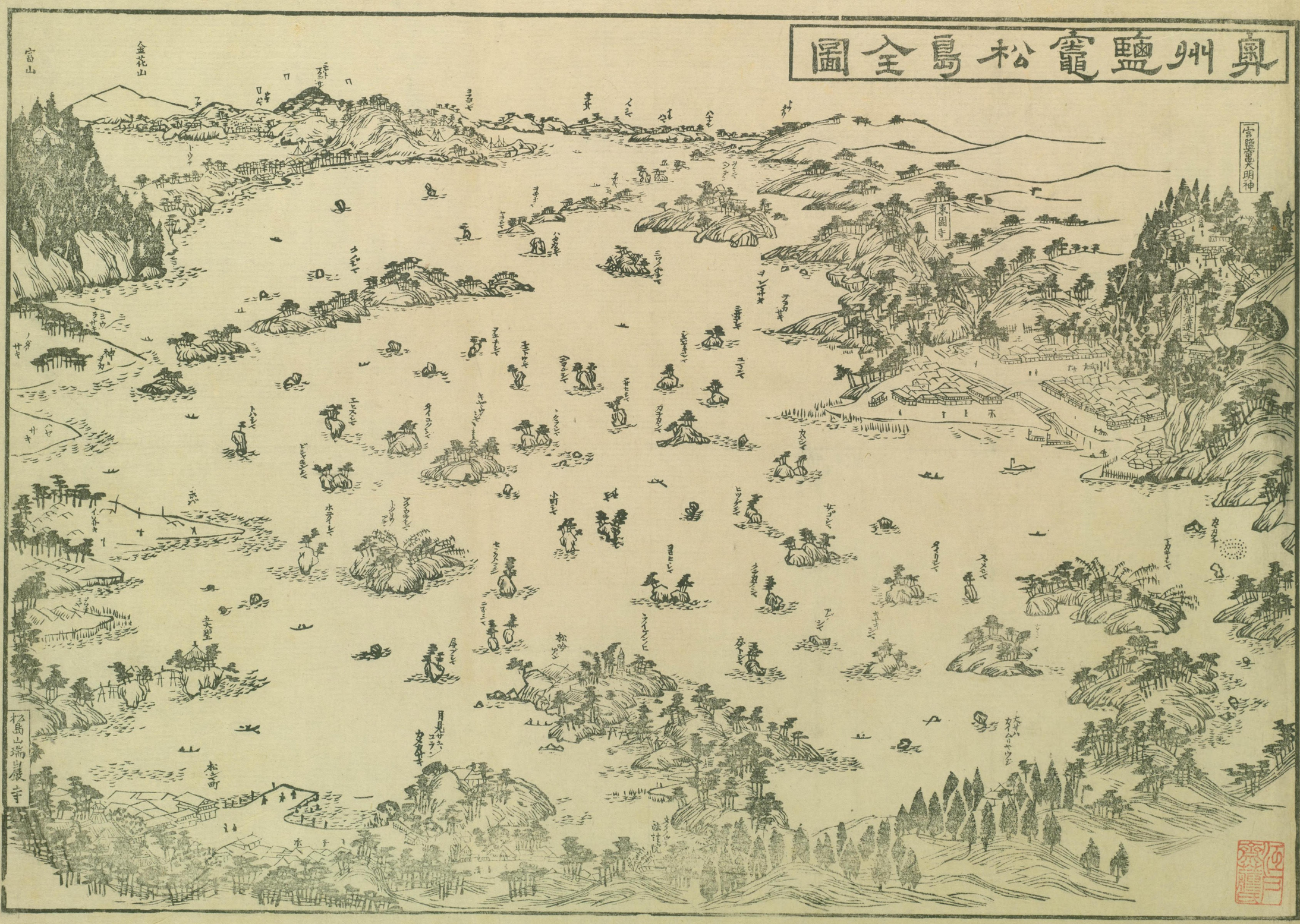
奥州鹽竈松嶋繪圖



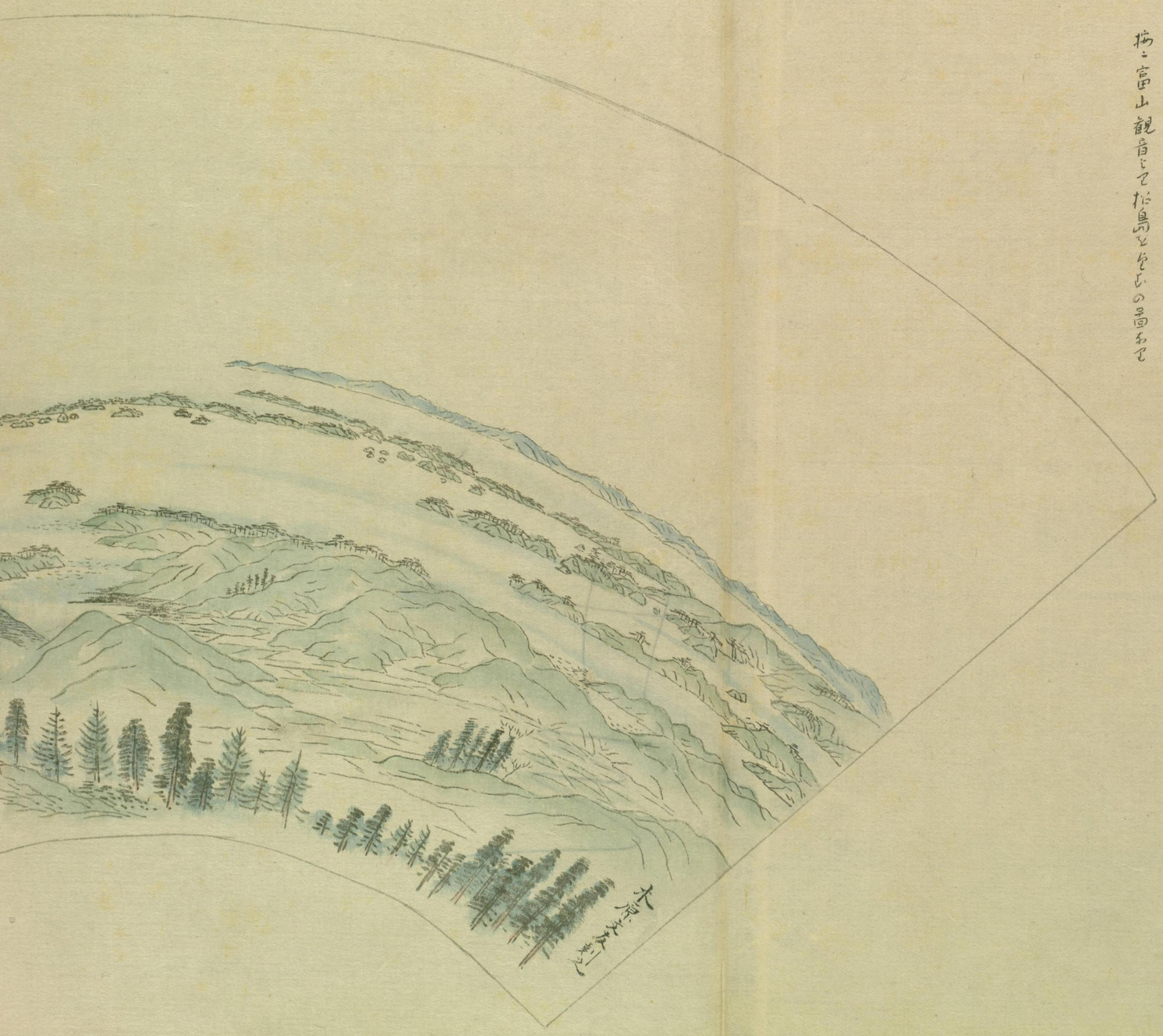


国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』　請求記号 亥-194

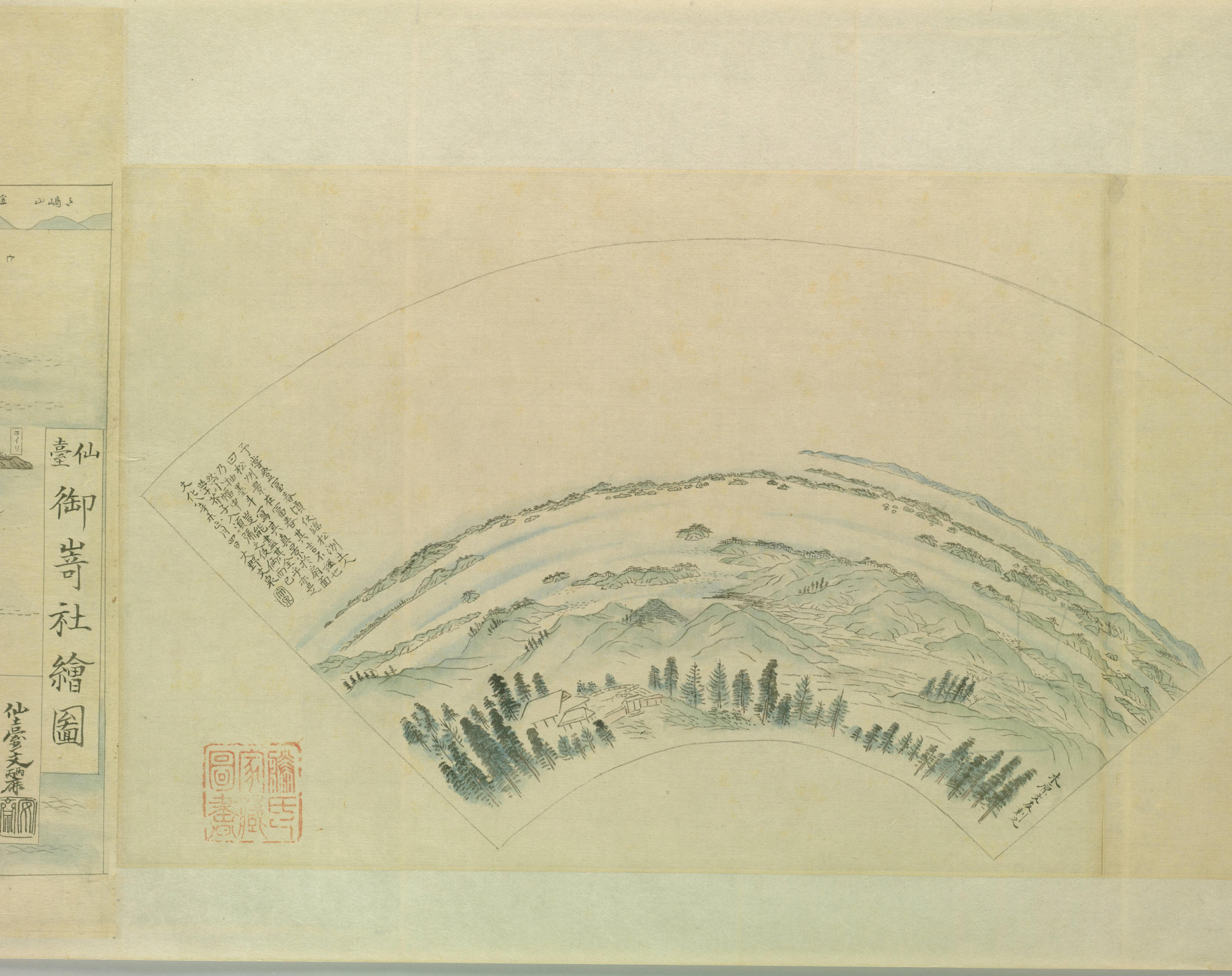
奥州鹽竈松島全圖



国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』　請求記号 亥-194

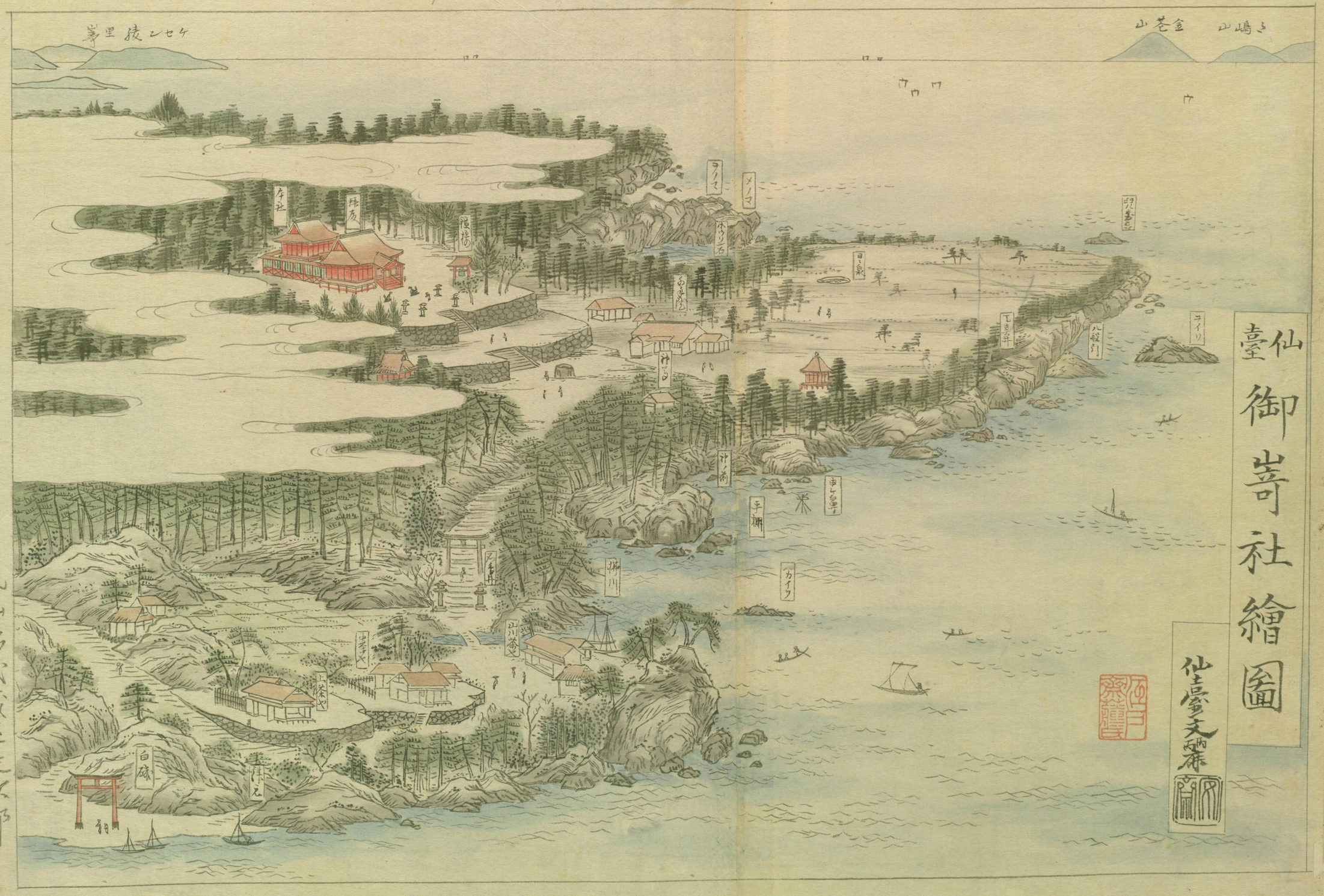


国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

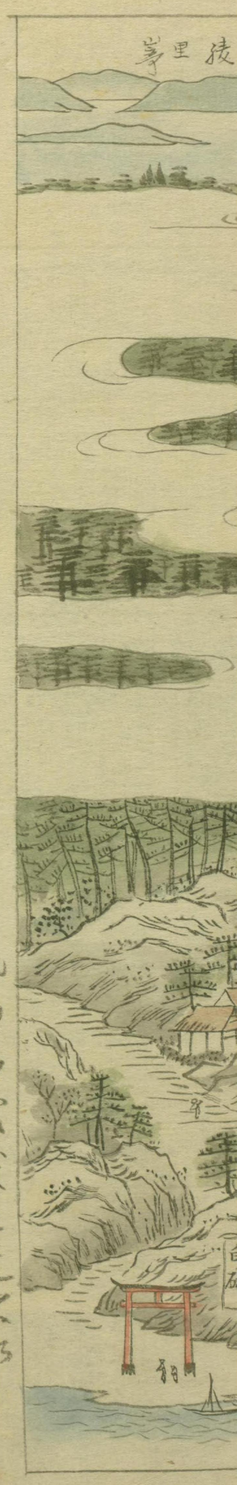


国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

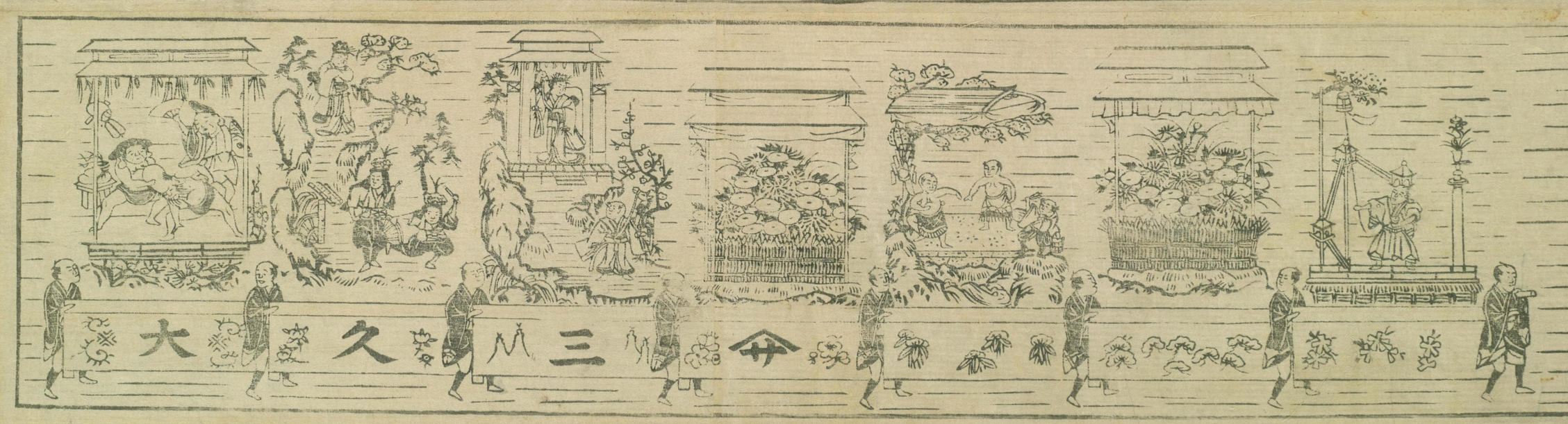
仙臺 御嵩社繪圖

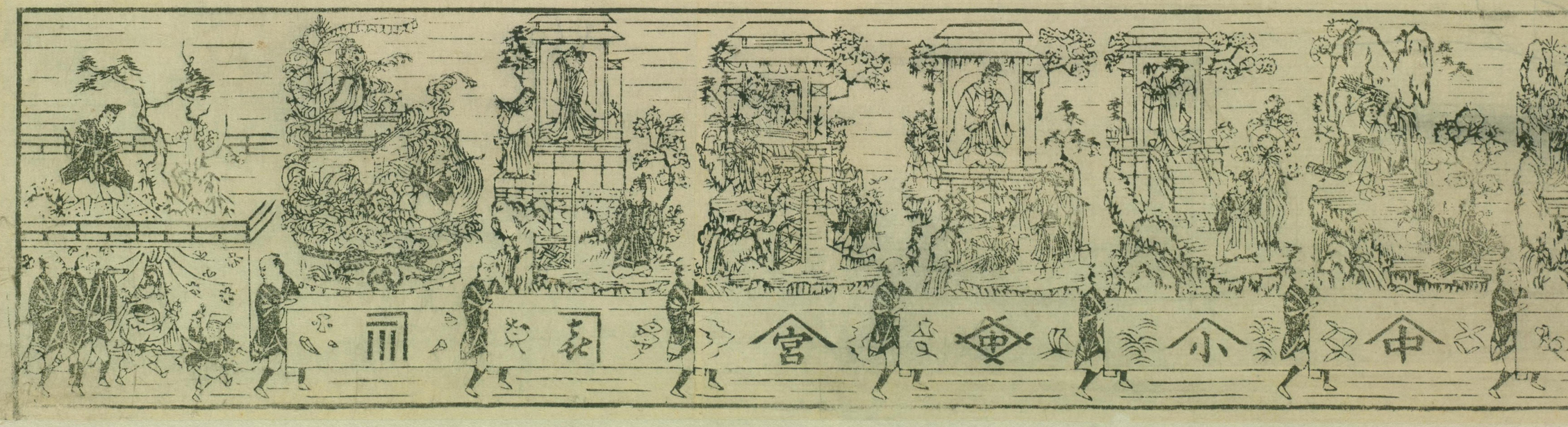


国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』　請求記号 亥-194



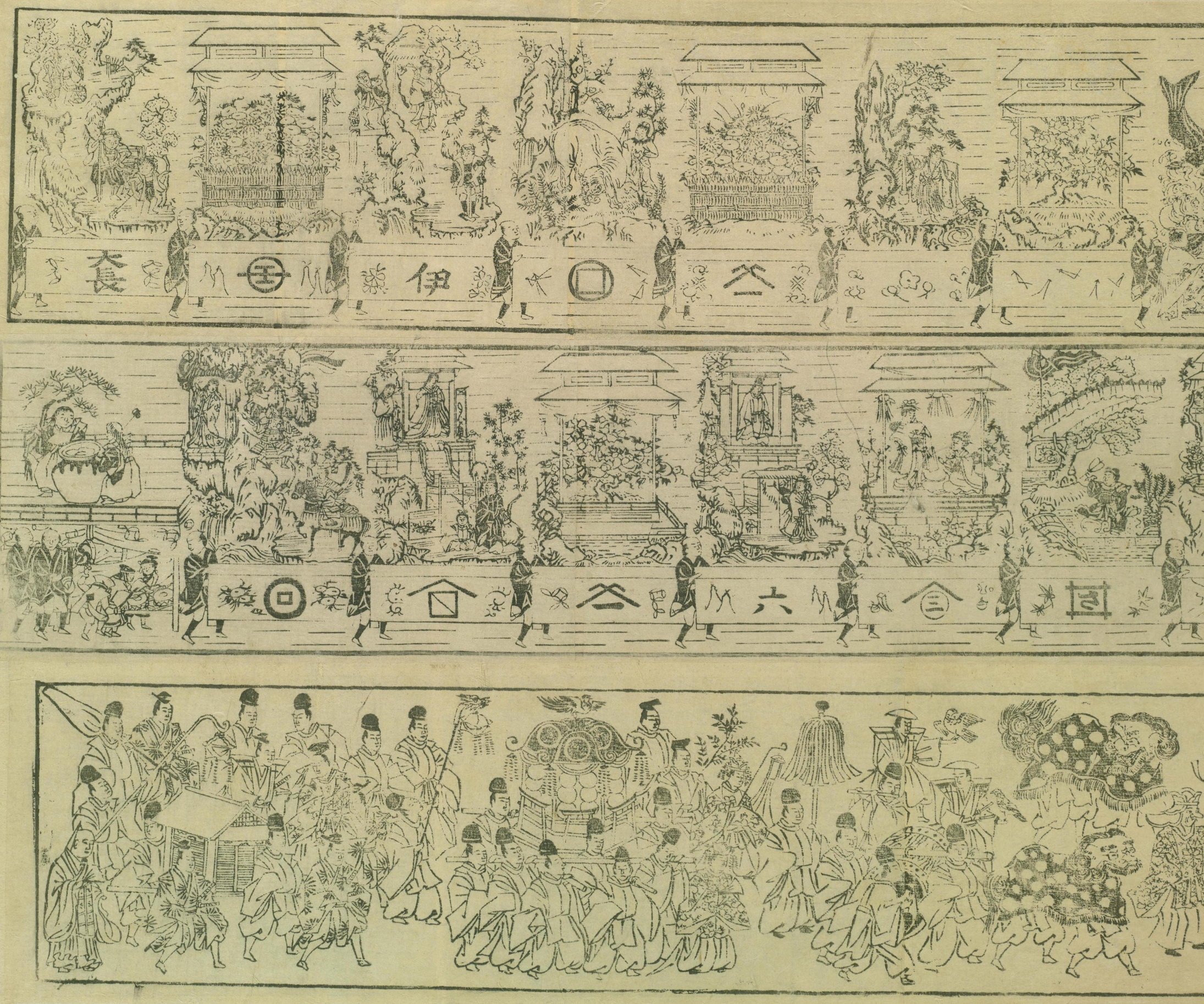
国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194





国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』　請求記号　亥-194

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』　請求記号 亥-194



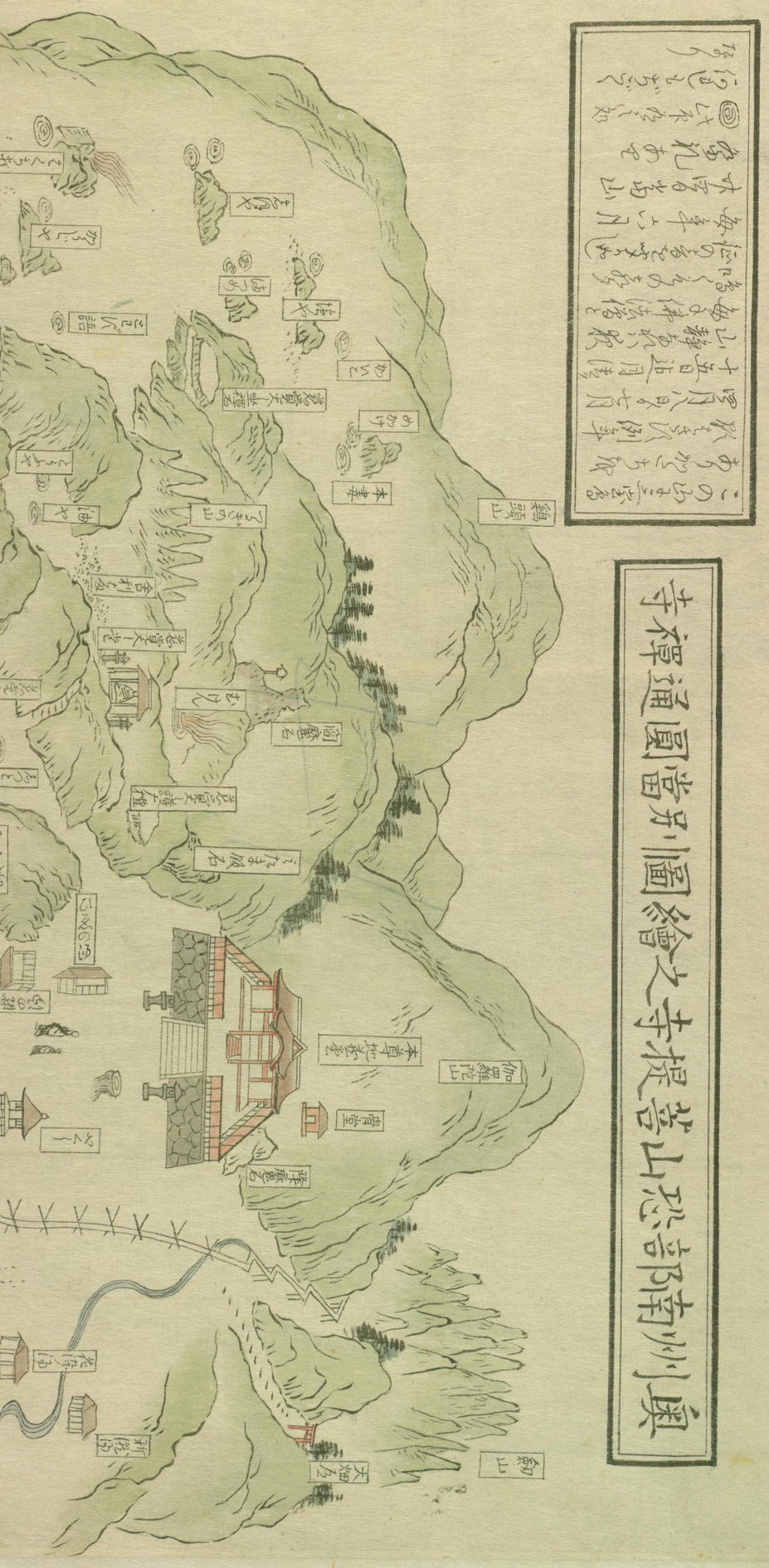
右六枚ハ仙臺御城下ニ於テ九月十五日 御社ハ大宮所と不許ニ付ケリ

東照大権現の御祭禮れ図なる事の外ニ前の花かしの金図を画き梓ニえりしこの五枚ゆゑもて

森江氏より贈らるゝ名なり十枚迄多なるゝも事を厭ふ故此巻ニ属し川但し右の花かしを

商家一軒毎ニ一帋をあきしと覚へ事各品の侍小高家の名ニ并同本ニを記せり左のことし

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194



国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

奥州南部恐山菩提寺之繪圖　別當圓通禪寺

右六枚ハ仙臺御城下ニ於テ九月十五日 御社ハ大町ト 兼請ニなりと
東照大權現の御祭禮ニ出る車山の外ニ前の花ありの全図を画き得るなりしこの五枚也これも年
毎ニ江氏より贈りし名あり十枚迄有りしも車を解けし故此花も無くなりし但し右の花おもしろきを
商家一軒毎ニ一ツ宛をおきしと覚ゆ其各商の侍ハ商家の名并図年下ホを記せり左のことし

源氏若紫　北目町 吉原屋太兵衛　乙姫浦島　国分町 小谷新兵衛

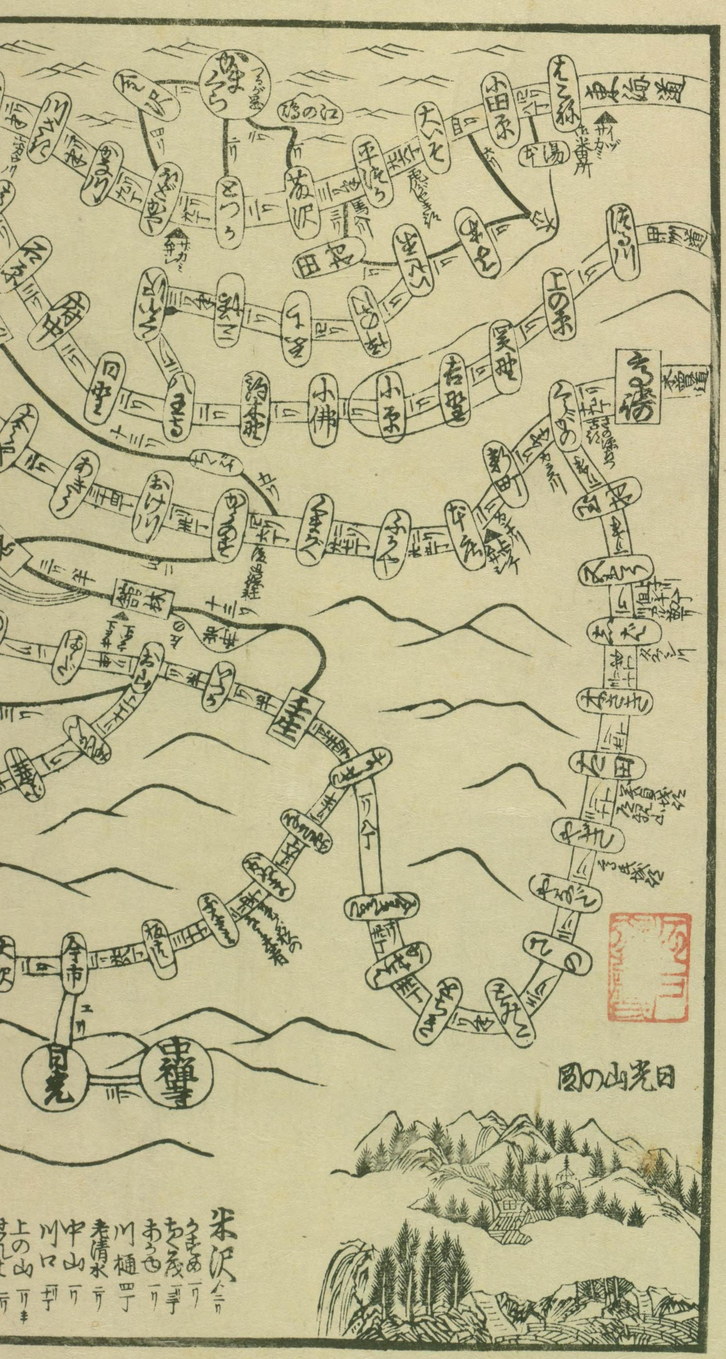
為朝鬼　立町 大坂屋新七　鯨 九月余 銀川古依大 自ら若者主人　肴町 永野利兵衛

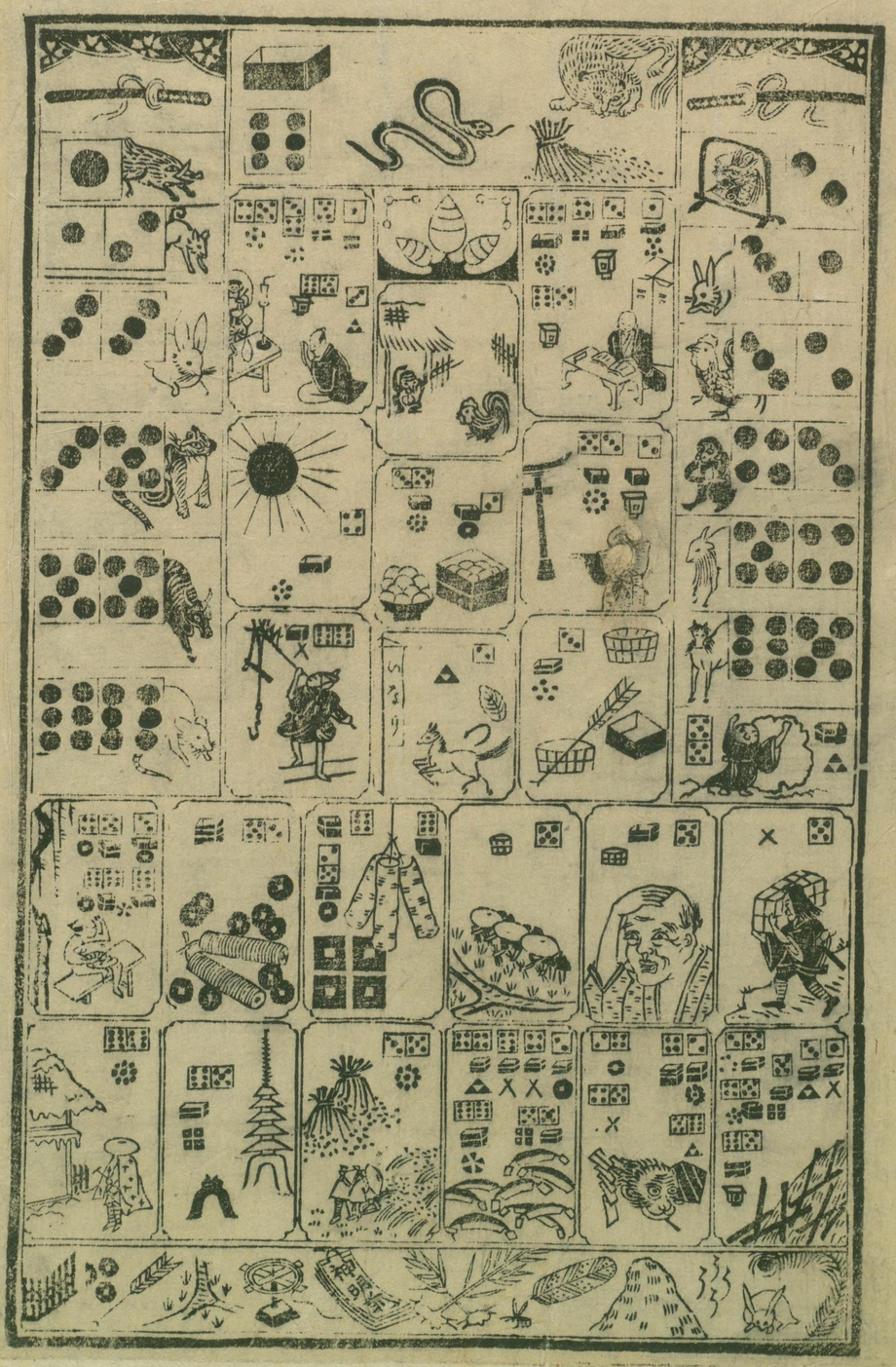
桃光公時　大町三丁目 中井新三郎　内ニ十ニ両ニ入ヘつく仕入すりら日ニ入たこ十入

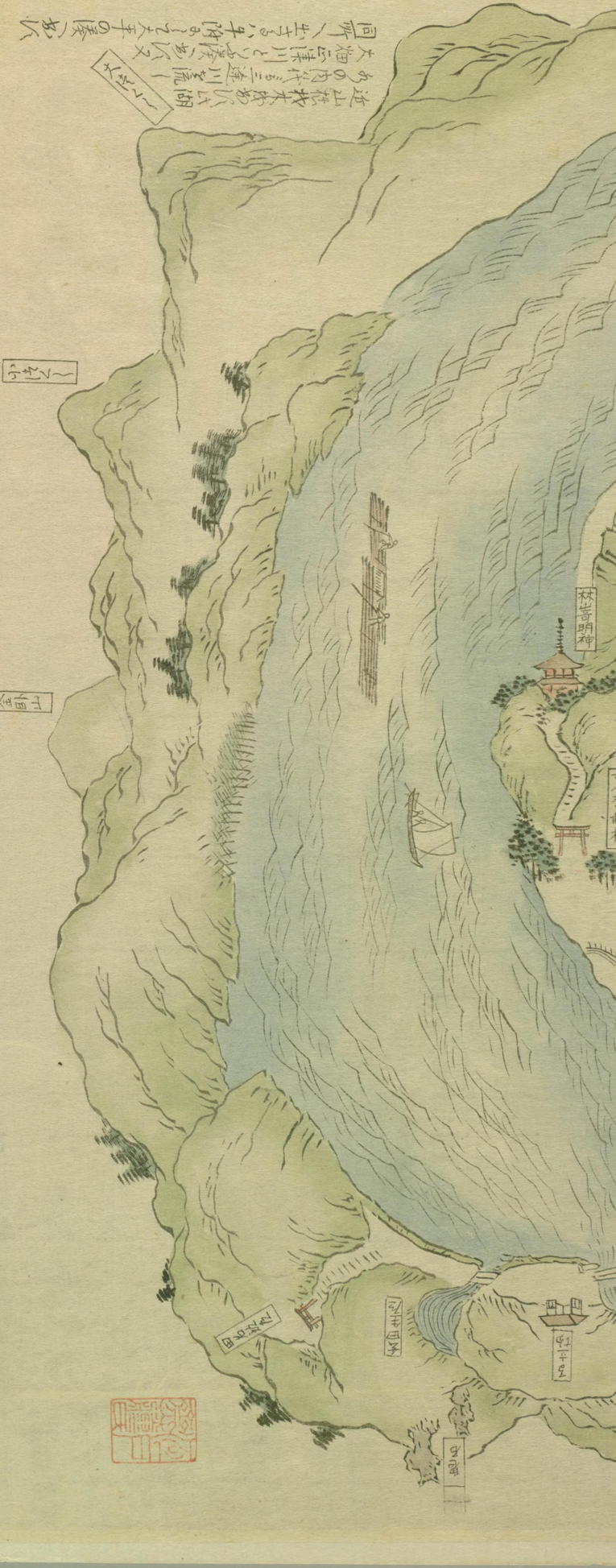
一番の造りものハ江戸の山ヶ寺出し大澤屋などかきあつめられしも未だ甲府の此の番附なる事し

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

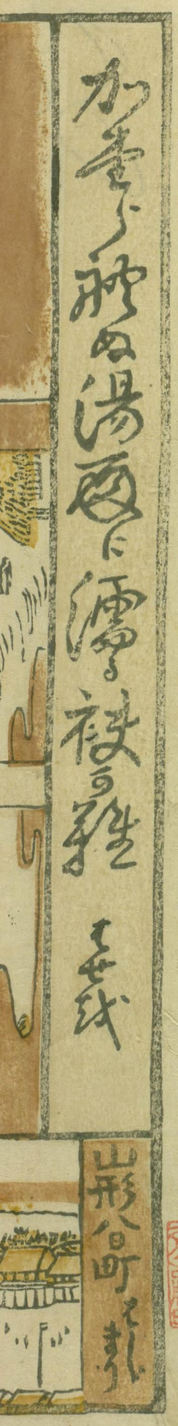






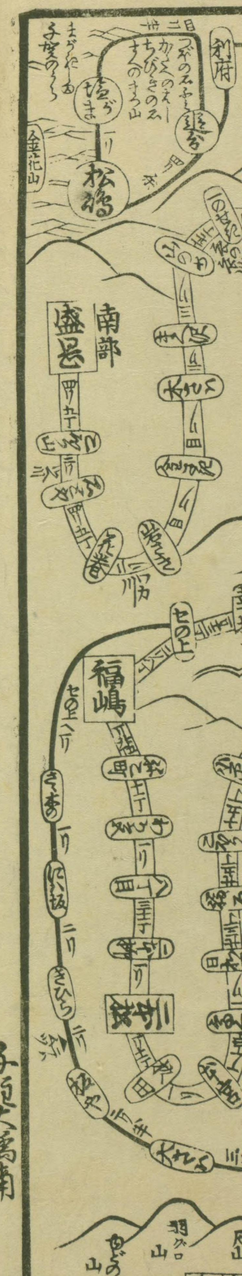
国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194



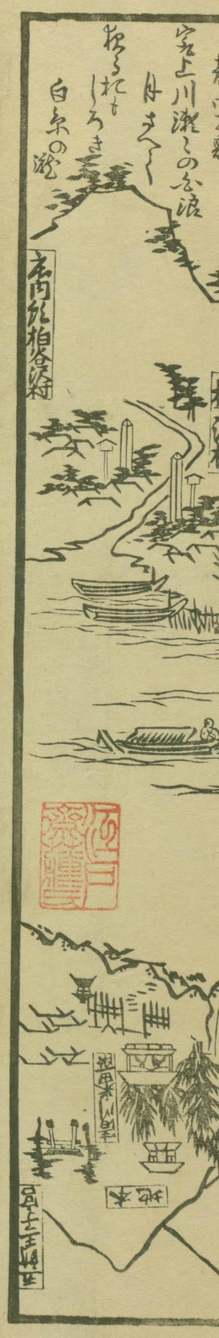
羽列家上郡外川山仙人堂共近里略繪圖

吉村別當 秀命院



子位大橋南 本屋伊助

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194



国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194

羽州山寺寶珠山立石寺繪圖

羽州山寺寶珠山立石寺繪圖

北 西 東 南

十六ラカン　天狗岩　ゲイノバラ　義光陣所　極楽院　旭観音　バジ治宮居　五大堂　白山　姥塔　花笠院　三階塔　奥ノ院　曽堂　灵水　あくび地蔵　宝蔵　宝こう院　四季院　帝釈天　中性院　不動院　雲ノ井院　中之院　金蔵院　地蔵堂　ダイダイ　ロクジン　三ノ宮庭　ビハイシ　押加堂　血ノ池　東谷池　清智常御石塔　中堂　三ノ宮　二ノ宮　山王宮　客神宮　ハンドトノ　ブダイ　茶ヤ　文殊堂　大日堂　神橋　田圃　磨滅

八王子宮　熊野宮　十善神　拝殿　地蔵堂　ダキ不動　ウブメハシ　ミヤサキ　川原町　対面石　レンリノ木　阿所川　立石寺　焼神堂　多井石塔　納経院　会伝堂　客神宮　ハイデン　ソトハ木　小杉　香ノ岩　不動石　大一岩　ヤすみ石　不動堂　ヒハイシ　大師堂　一ノ杉

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』　請求記号　亥-194

国立国会図書館　タイトル『扶桑探勝図』 請求記号 亥-194